

21年目の葉山

村山市立葉山中学校
学校だより
第10号
令和6年9月11日

私のヒーロー“山下泰裕さん”

校長 富塚 義幸

2学期の始業式で、オリンピックにまつわる次のような話をしました。『～パリで開催されたオリンピックで、あなたはどんな場面が印象的でしたか？一番を決めるのは難しいですが、私はスケートボードで金メダルに輝いた“堀米雄斗選手”のチャレンジが最初に浮かんできます。失敗しても同じ技に挑み続ける姿。私自身、チャレンジしても成果を得られないことが多々あります。彼の姿を見て「成果を得られなかったとしても、チャレンジした自分に胸を張れる人になりたいな」と強く思いました。これからパラリンピックが始まります。精一杯頑張る姿に感動し、生き方を学びたいです。～』先日、パラリンピックが閉幕しました。オリンピックで活躍した選手の中で、私の一番のヒーローは“山下泰裕さん”です。紹介します。

私のヒーローは、柔道家の山下泰裕さんです。柔道の強さだけでなく、礼儀正しく、凛とした姿に憧れました。中学校3年生の時、私は、秋田県で行われた柔道の全国大会に出場しました。大会前日の合同稽古に、当時「日本で一番強い柔道家」と言われた山下選手が参加していました。全日本選手権で連続優勝している「日本一の選手」が目の前にいたのです。残念ながら、「山下選手と稽古をしたい」と願う全国の柔道少年との順番争いに敗れ、私は山下選手と組み合うことはできませんでした。合同稽古が終わった瞬間です。山下選手は、おしぼりのある場所に駆けていき、沢山のおしぼりを抱え上げると、「お疲れ様でした」と丁寧におじぎをしながら、指導して下さった方々におしぼりを渡したのです。指導者の中では一番年少だったので、当然の行動だったのかもしれませんが、しかし、日本一強い選手の礼儀正しく、凛とした当たり前の行動は、道場にいた柔道少年すべての心をつかみました。「山下選手のような人になりたい」と。大会後帰宅したとき、母が「いいものあげる」と言って、山下選手のサイン入り大会プログラムを差し出しました。私は大興奮でした。母は、ずいぶん並んでサインをいただいたこと、いやな顔をしないで応じてくれたことなどを語りました。ますます山下選手が好きになりました。私の宝物です。その後、山下選手は、ロサンゼルス・オリンピック柔道無差別級で金メダルを獲得しました。エジプトのラシュワン選手との決勝は、今でも印象に残っています。2回戦で右足の肉離れをしながら戦った山下選手の気迫、怪我を知っていて弱点を攻めないラシュワン選手のフェアプレー精神。大学時代、私は講道館で行われた柔道の合宿に参加しました。稽古を終え、風呂場で汗を流していたときです。「フンフン」と鼻歌を歌いながら、隣でシャワーを使い始めた人がいました。足下をみると、野球のグローブのような大きさです。恐る恐る顔を上げると、今まで見た人間の中で一番体の大きな外国の方がいました。びっくり仰天、ラシュワン選手でした。目が合うと、「ハイ」と言ったような、言わないような。エジプトチームも合宿にきていたのです。ラシュワン選手は、本当に大きくて陽気な人でした。(参考までに…)

8・9月のアルバム ～スタートダッシュはバッチリ!～

2学期86日間がスタートしました。生徒の皆さんに「たくさんの行事(=体験)を通して成長し、より良い葉山中の伝統を創り上げることを」を要望します。年間計画にはない取り組みもありましたが、充実した時間を過ごしました。スタートダッシュはバッチリです!

『21本の向日葵プロジェクト』



『校内授業研究会』



『体力向上プロジェクト』



『駐車場のライン引きプロジェクト』



『村山教育事務所指導訪問』



『SOSの出し方講座』

